

山之内晴夏

ORCID: 0000-0001-7712-9564

## 文末表現「ましょう」のやわらげた命令用法とその学習の必要性

DOI: 10.12775/sijp.2020.56-59.19

### ABSTRACT

This research aims to determine the necessity of teaching sentences ending in *-mashō* as an imperative in Japanese language education. Nitta (1991) states that *-mashō* is used as やわらげた命令 ('an euphemistic imperative').

This paper reviews the frequency of sentences ending in *-mashō* appearing in Japanese textbooks and in Japanese written by native Japanese speakers. An investigation of Japanese textbooks showed that, while they rarely include the imperative use of *-mashō* as a learning item, *-mashō* is frequently used as an imperative in the test instructions of these textbooks.

The examination of a corpus of Japanese written by native Japanese speakers shows that *-mashō* as an imperative appears frequently when a person is giving advice or answering a question. This use of *-mashō* can thus be attributed to two types of persons: the provider of information who is considered superior to the receiver and the receiver who is considered inferior to the provider. Considering the high frequency of *-mashō* in Japanese textbooks and in Japanese written by native Japanese speakers, it is deemed essential to teach Japanese learners the use of *-mashō* as an imperative.

**KEYWORDS:** *-mashō*, euphemistic imperative, Japanese textbooks, text instruction, corpus

### 1. はじめに

文末表現の「ましょう」は複数の用法を持つが、その一つとして、命令用法があげられる。命令用法の「ましょう」とは次のようなものである。

- (1) (教師が学生に) 教科書の問題に答えましょう。(作例)
- (2) 食事の前には手を洗いましょう。(グループ・ジャマシイ,1998 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版)

仁田（1991: 213）は、「ましょう」の命令用法を「やわらげた命令」と呼んでいる。また、やわらげた命令について「動作主体に話し手を含まないことによって、〈誘いかけ〉を表すシヨウ形の用法から派生したものである」と仁田（1991: 223）では述べられている。グループジャマシイ（1998: 610）では、「ましょう」の命令用法を「呼びかけ」という言葉で示し、「複数の人々に「．．．する／しないようにしよう」とある行動をとる（とらない）ように呼びかけるのに用いる。（中略）人々にそれに従うように呼びかける言い方。」と述べている。

この命令用法の「ましょう」は、日本語教育でどのように扱われているのであろうか。また、日本語母語話者の言語活動において、どの程度の頻度で使用されているのであろうか。さらに、日本語教育における学習項目としての扱われ方と、日本語母語話者の使用実態は妥当な関係となっているのであろうか。

命令用法の「ましょう」について、日本語教育における実態と日本語母語話者の言語活動における実態を明らかにするために、本稿では日本語教育の面から日本語教科書の調査、日本語母語話者の言語活動の面から書き言葉と話し言葉のコーパス調査を行う。

これらの調査をもとに考察を行い、今後の日本語教育における命令用法「ましょう」のありかたについて私見を述べる。

## 2. 本稿における文末表現「ましょう」の扱い

はじめに、本稿における「ましょう」の扱いについて述べる。

第一に、本稿での代表形としての「ましょう」である。文末表現「ましょう」の形式は、以下のような例があげられる。

(3) 問題に答えましょう。（作例）

(4) 自分の荷物は自分で管理しましょう。（作例）

上に示すような例の場合、「ましょう」の前にいかなる動詞をとっても、「ましょう」部分は変化しない。本稿ではこの変化のない部分を代表形として扱う。

第二に、普通体「よう」と対応する丁寧体としての「ましょう」についてである。

ここでは丁寧体「ましょう」と対応する普通体の形として、本稿では「よう」という形をとる。普通体の場合、以下のような例があげられる。

- (3) 問題に答えよう。
- (4) 自分の荷物は自分で管理しよう。
- (5) 一日一冊本を読もう。(作例)

上に示した3例のうち、(3)(4)は文末の形が「よう」となるが、同じ「ましょう」の普通体の形をとる(5)では「もう」となる。(5)に示すように五段活用(日本語教育における1グループ)の場合、他の種類の活用と異なる形をとるが、本稿では上一段活用と下一段活用(日本語教育における2グループ)、またサ行変格活用及びカ行変格活用(日本語教育における3グループ)がとる「よう」から、普通体の場合の代表形を「よう」とする。

次に、本稿では普通体「よう」を扱わず、丁寧体「ましょう」のみを扱っているが、これにかかわる要因を以下に述べる。

本稿では、日本語教育における文末表現「ましょう」、また強い関連のある「よう」の指導に関する実態を明らかにするために日本語教科書を対象にして教科書調査を行った。調査対象とした教科書については後の第4章に述べる。この教科書調査で得られた用例は、普通体「よう」に比べて丁寧体「ましょう」の用例が多く見られた。このことから、本稿では用例数の多い丁寧体「ましょう」に限定して調査結果、考察を述べる。今後、普通体「よう」についても調査・研究を進めるべきであると考えている。

### 3. 先行研究

本稿では、丁寧体「ましょう」を扱うが、仁田は、丁寧体「ましょう」に対応する普通体「よう」を「シヨウ形」とし、仁田(1991: 212)で「動詞の意志性・無意志性、ガ格のあり方、聞き手への利益付与の有無など」によって「シヨウ形の用法」として5つの用法を示している。

- [I] 話し手の推し量りを表すもの。  
明日は全国的に晴天に恵まれましょう。
- [II] 話し手の意志を表すもの。

「今日はひとつ入ってみてやろう。」

[Ⅲ] 聞き手への話し手の行為提供を申し出るもの。

「お送りしましょう。」

[Ⅳ] 誘いかけを表すもの。

「お待ち遠さま。さあ、すぐに出かけましょう。」

[Ⅴ] **やわらげた命令**

「こどもにいたずらしないように しましょう。 茨木市立中津小学校」

(各用法の例文及び下線部分は仁田 (1991) pp. 212-213 による。)

仁田はやわらげた命令について、「動作主体に話し手を含まないことによる[V]やわらげた命令,と言った用法も存する。」(1991: 213)、「動作主体に話し手を含まないことによって、〈誘いかけ〉を表すシヨウ形の用法から派生したものである。」(p. 223)と述べている。

仁田 (1991) が示す「シヨウ形」という言葉は、本稿における普通体「よう」にあたると考えられる。また、「シヨウ形の用法」という言葉に示されるように、サ行変格活用 (日本語教育における 3 グループ) の「する」からなる「しよう」を代表形として述べている。しかし、仁田が示す用例にあるように、「しよう」のみではなく、動詞「行く、飲む」などの五段活用 (日本語教育における 1 グループ)、「見る、食べる」などの上一段・下一段活用 (日本語教育における 2 グループ) の語も対象としている。また、仁田 (1991) では普通体「シヨウ」を代表として述べ、仁田が述べる「シヨウ形の用法」に示される例文に「ましょう」が見られるため、「シヨウ形の用法」に示される 5 つの用法は丁寧体「ましょう」にも共通するものであると考える。

また、グループ・ジャマシイ (1998: 610) は、仁田 (1991) が「やわらげた命令」として示す命令用法を、「人々に従うように呼びかける言い方」という用法説明から「呼びかけ」という名前で示している。以下はグループ・ジャマシイ (1998: 610) に示される例文である。

(6)横断する時は左右の車に注意しよう。

- (7)飲酒運転は絶対に避けよう。  
 (8)食事の前には手を洗いましょう。  
 (9)動物にいたずらしないようにしましょう。

(例文(6), (7), (8), (9)はグループ・ジャマシイ (1998) p. 610による。)

このように、普通体「よう」とその丁寧体「ましょう」の命令用法の存在については明らかになっているが、その使用実態や日本語教科書での扱われ方に関しての先行研究や調査は、今回筆者が調べた限りでは見られなかった。

この現状をふまえ、本稿では次に示す3点に注目し、調査を行った。第一に、日本語教科書において、命令用法で使われる「ましょう」は学習項目として扱われているかどうか、という点に注目した教科書調査である。第二に、命令用法として使われる「ましょう」は日本語教科書において学習項目以外ではどのような場合に現れるのかという点に注目した教科書調査である。以上の2点は、日本語教育における命令用法の「ましょう」の現状を把握するためである。第三に、日本語母語話者の言語活動における命令用法の「ましょう」の出現頻度についてコーパス調査である。これは、命令用法の「ましょう」の学習の必要性を検討する上で、学習者が耳にしたり、学習者自身が学習後に使用したりすると予想される頻度を見るためである。

## 4. 日本語教科書における「ましょう」の扱われ方

### 4.1. 学習項目における「ましょう」の調査と結果

本稿では、日本語教科書における「ましょう」の実態について調査を行った。日本語教科書を対象とする調査で採用した教科書は4種、合計8冊である。教科書のレベルは、日本語能力試験のN3レベルまでの文法・句型を学習する教科書に限定した。調査対象とした教科書の詳細を以下に示す。

『みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊』（スリーエーネットワーク編著,2012）

『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』（スリーエーネットワーク編著,2012）

- 『学ぼう！にほんご初級1』（日本語教育教材開発委員会編著,2005）  
 『学ぼう！にほんご初級2』（日本語教育教材開発委員会編著,2005）  
 『学ぼう！にほんご初中級』（日本語教育教材開発委員会編著,2006）  
 『できる日本語初級』（田中美帆他編,2011）  
 『できる日本語初中級』（にほんご編集チーム編,2012）  
 『日本語初級1大地』（山崎佳子他,2008）

まず、命令用法に限らず仁田（1991）が「シヨウ形の用法」で示す全ての用法を対象にして、日本語教科書における文末表現「ましょう」の学習項目としての扱われ方を調査した。本稿において「学習項目」と呼ぶものは、文法や文型の導入のための文型提示、文型を含んだ例文、文型の定着を狙った練習問題などである。

日本語教科書における文末表現「ましょう」の学習項目としての扱われ方を調査した結果を表1に示す。表1は、仁田（1991）の「シヨウ形の用法」で示される各用法の、日本語教科書における初出ページをまとめたものである。

	対象日本語教科書	推し毎日	意志	申し出	誘いかけ	やわらげた命令
A	みんなの日本語初級I			p.118～	p.48～	
	みんなの日本語初級II		p.44～			
B	学ぼう！にほんご初級1				p.49～	
	学ぼう！にほんご初級2		p.27～			
	学ぼう！にほんご初中級					
C	できる日本語初級			p.130～	p.104～	
	できる日本語初中級		p.46～			
D	日本語初級1大地			p.82～	p.48～	

表1 本稿調査対象日本語教科書で扱われる「ましょう」の用法（ページ数は初出ページを表す。）

今回対象とした4種の日本語教科書において、『みんなの日本語』と『できる日本語』の2種の教科書で意志、申し出、誘いかけの3用法が学習項目として提示されている。『学ぼう！にほんご』では意志と誘いかけの用法、『日本語初級1大地』では、申し出と誘いかけの2用法が提示される。また初出順は、誘いかけの用法が初級

の早い段階で提示され、後に申し出、意志の用法が続く。この傾向はいずれの教科書でも共通していることがわかった。

本稿で調査対象とした教科書においては5つの用法「推し量り、意志、申し出、誘いかけ、やわらげた命令」のうち、「意志、申し出、誘いかけ」の3つが学習項目として日本語教科書に提示されていることが明らかになった。一方でこれは同時に、推し量りの用法、そして本稿で注目するやわらげた命令の「ましょう」は調査対象とした教科書においては学習項目に含まれていないということを意味する。

## 4.2. 学習項目以外における「ましょう」の調査と結果

本稿では、4.1. で示した4種8冊の日本語教科書を対象にして学習項目以外に見られる文末表現の「ましょう」についても調査を行った。本稿の、学習項目以外に見られる文末表現「ましょう」の調査で扱ったのは、教室用語と問題指示文である。

第一に、教室用語に誘いかけの用法の「ましょう」が見られる。教室用語とは、学習項目とは別に示されるものであり、教師からの指示など、授業を円滑に進めるための言葉である。

図1に示す『みんなの日本語初級I第2版』（2012）では「教室のことば」と題された部分で「始めましょう」「終わりましょう」「休みましょう」を提示している。これは、教師から教室内の学習者に向けて、「（授業を）始めましょう。」「（授業を）終わりましょう」「（休み時間なので）休みましょう」という指示として用いられるものと考えられる。また、これらの主体は教師と学習者であると考えられることから、誘いかけの用法と判断した。他の教科書においても教室用語で「ましょう」が文末に見られる例があり、いずれの場合についても誘いかけの用法であると判断した。

II. 教室の ことば

1. 始めましょう。
2. 終わりましょう。
3. 休みましょう。
4. わかりますか。 ……はい、わかります。/ いいえ、わかりません。
5. もう 一度 [お願いします]。
6. いいです。
7. 違います。
8. 名前
9. 試験、宿題
10. 質問、答え、例

図1 『みんなの日本語初級 I 第2版』 (2012), p.5, II. 教室のことば

第二に、問題指示文でやわらげた命令の用法の「ましょう」が見られる。問題指示文とは、練習問題等で主に問題の答え方を指示するための文である。図2に示す「\_\_\_\_\_のところを考えて文を作りましょう」(『学ぼう! にほんご初中級』, p.14) は筆者が読者である学習者に問題の取り組み方を指示する文であり、「ましょう」はやわらげた命令であると考えられる。

練習 \_\_\_\_\_のところを考えて文を作りましょう。

- (1) A: レポートを書きましたか。  
 B: 今から書きます。 → \_\_\_\_\_ ところです。  
 今、書いています。 → \_\_\_\_\_ ところです。  
 今、書き終わりました。 → \_\_\_\_\_ ところです。
- (2) ワンさんに電話をかけると、  
 今、起きました。 → \_\_\_\_\_ ところだった。  
 まだご飯を食べています。 → \_\_\_\_\_ ところだった。  
 今からうちを出ます。 → \_\_\_\_\_ ところだった。

図2 『学ぼう! にほんご初中級』 (2005), p.14 問題指示文

『学ぼう! にほんご初中級』(2006)では、教科書の問題指示文314例のうち196例の文末にやわらげた命令の「ましょう」が見られた。また、その他の教科書においても問題指示文においてやわらげた命令の「ましょう」が見られた。各教科書の問題指示文の総数と、文末にやわらげた命令の「ましょう」を含む用例数を調査した結果を表2に示す。『学ぼう! にほんご初級1』において、問題



指示文全45例のうち9例、『学ぼう！にほんご初級2』では全27例のうち5例、『学ぼう！にほんご初中級』で全314例のうち196例、『できる日本語初級』において全323例のうち118例、『できる日本語初中級』において全231例のうち99例という結果になった。なお、『みんなの日本語初級Ⅰ』、『みんなの日本語初級Ⅱ』、『日本語初級1大地』には教科書中に問題指示文が現れないため、問題指示文の総数とやわらげた命令「ましょう」を含む用例数は0となっている。

	対象日本語教科書	問題指示文総数	命令「ましょう」を含む用例数	命令用法「ましょう」を含む用例が総数に占める割合
A	みんなの日本語初級Ⅰ	0	0	0%
	みんなの日本語初級Ⅱ	0	0	0%
B	学ぼう！にほんご初級1	45	9	20.00%
	学ぼう！にほんご初級2	27	5	18.51%
C	学ぼう！にほんご初中級	314	196	62.42%
	できる日本語初級	323	118	36.53%
	できる日本語初中級	231	99	42.86%
D	日本語初級1大地	0	0	0%

表2 各教科書の問題指示文の総数と文末にやわらげた命令の「ましょう」を含む用例数

### 4.3. 教科書調査の結果に関する考察

ここで、日本語教科書を対象に行った学習項目と学習項目以外の2つの調査の結果を個別に述べ、結果に関して考察を行う。

日本語教科書の学習項目の調査の結果、仁田(1991)の「シヨウ形の用法」全5用法のうち学習項目として意志、申し出、誘いかけの3用法が扱われ、押し量りとやわらげた命令の2用法は扱われていないことがわかった。

次に学習項目以外では、教室用語で誘いかけ、問題指示文でやわらげた命令の用法が見られることが明らかになった。ここで注目すべき点は、学習項目としてのやわらげた命令の扱われ方と、学習項目以外として述べた、問題指示文におけるやわらげた命令の扱われ方である。

本稿の調査対象教科書において、やわらげた命令は学習項目として扱われていないことがわかった。しかし、問題指示文の調査において、問題指示文でやわらげた命令の「ましょう」が多く見られることが明らかになった。この調査からは、学習項目として扱われてい

ないやわらげた命令の「ましょう」が教科書の問題指示文で多用されているという現状が明らかになった。

教科書で学習者が目にする機会があるのであれば、教科書でその用法を学習項目として示すべきであると考え。しかし、教科書に現れることのみを理由として学習項目にするべきであると言えるわけではなく、日本語を使用して生活する上で、使用頻度が高いのかどうかという点も考慮する必要がある。

## 5. 日本語母語話者の言語活動における「ましょう」の出現頻度調査

### 5.1. 目的

第4章では、日本語教科書におけるやわらげた命令の「ましょう」についての調査結果を見てきた。日本語教科書において、学習項目として提示されないやわらげた命令の「ましょう」が問題指示文において高い頻度で現れるという実態について明らかになったが、一方で日本語母語話者のやわらげた命令「ましょう」の使用実態はどのようなものであろうか。母語話者の言語活動における出現頻度が高ければ、教科書で学習者にやわらげた命令を提示する必要性がより高くなると考える。このような理由から、やわらげた命令の「ましょう」を日本語母語話者の言語活動における出現頻度の観点から調査した。母語話者の言語活動におけるやわらげた命令の「ましょう」の出現頻度を明らかにするために、日本語母語話者の書き言葉と話し言葉を対象にしてコーパス調査を行った。以下5.2.より、本稿における書き言葉のコーパス調査の概要とその結果、また5.3.より話し言葉のコーパス調査の概要とその結果について述べる。

## 5.2. 書き言葉

### 5.2.1. 出現頻度の調査

書き言葉の調査では、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、以下BCCWJと呼ぶ。)」を使用した。BCCWJを、国立国語研究所のコーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて文末表現「ましょう」の文字列検索を行った。検索対象とするレジスターはコアに含まれる「出版・新聞」、「出版・雑誌」、「出版・書籍」、「特定目的・白書」、「特定目的・知恵袋」、「特定目的・ブログ」の6つとした。コーパス調査では、本稿で注目するやわらげた命令の用法に限らず、「ましょう」の全ての用法を対象に文字列検索を行い、

用例を得た。また、得られた用例を仁田（1991）の「シヨウ形の用法」に示される 5 つの用法に分類した。これは、やわらげた命令用法とその他の用法を比較し、出現頻度を比較するためである。

### 5.2.2. 出現頻度調査の結果

日本語母語話者の書き言葉におけるやわらげた命令の「ましょう」の出現頻度について BCCWJ を使用して調査した結果、得られた用例は 157 例であった。得られた 157 例を、動作主体、前文脈、後文脈等から判断し、仁田（1991）の「シヨウ形の用法」の 5 つに分類した。

分類の結果、押し量りの用例が 6 例、意志の用例が 45 例、申し出の用例が 3 例、誘いかけの用例が 17 例、やわらげた命令の用例が 81 例、その他に分類された用例は 5 例であった。その他には、動作主体、前文脈、後文脈等から用法を判断することが難しい例が含まれる。分類の結果を図 3 に示す。

BCCWJ を用いた調査の結果、得られた用例 157 例のうち最も多く見られた用例はやわらげた命令の用法であった。やわらげた命令の用法として分類した用例は 81 例であり、総数のうち約 51.5% を占める。

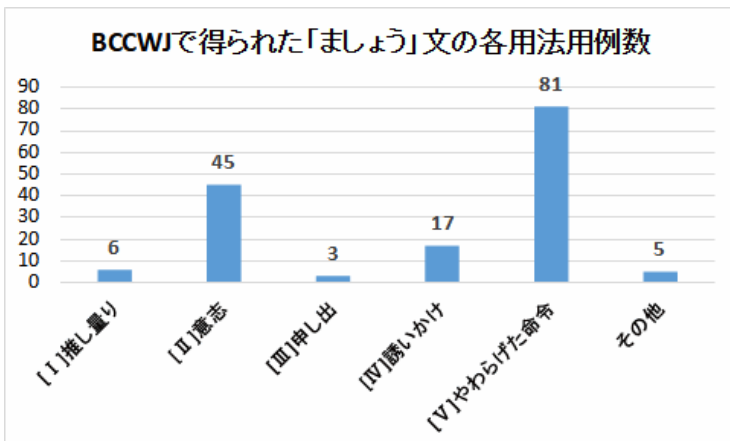


図 3 BCCWJ で得られた「ましょう」文の各用法用例数

### 5.3. 話し言葉

#### 5.3.1. 出現頻度の調査

話し言葉の調査では、国立国語研究所の「日本語話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese、以下 CSJ と呼ぶ。)」を使用した。CSJ を、国立国語研究所のコーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて文末表現「ましょう」の文字列検索を行った。検索対象とするレジスターはコアに含まれる「独話・学会」、「独話・模擬」、「独話・朗読」、「独話・再朗読」、「対話・学会」、「対話・模擬」、「対話・課題」、「対話・自由」の8つとした。本稿で注目するやわらげた命令に限らず全ての用法を対象に文字列検索を行い、用例を得た。また、得られた用例を仁田 (1991) の「シヨウ形の用法」で示される5つの用法に分類した。これは、やわらげた命令とその他の用法を比較し、出現頻度を比較するためである。

#### 5.3.2. 出現頻度調査の結果

母語話者の話し言葉におけるやわらげた命令用法の「ましょう」の出現頻度について CSJ を用いて調査した結果、得られた用例は86例であった。得られた86例を動作主体、前文脈、後文脈等から判断し、仁田 (1991) の「シヨウ形の用法」の5つに分類した。分類の結果、推し量りの用例が6例、意志の用例が63例、申し出の用例は0例、誘いかけの用例が13例、やわらげた命令の用例は0例、その他に分類した例は4例であった。その他には、動作主体、前文脈、後文脈等から用法を判断することが難しい例が含まれる。分類の結果を図4に示す。

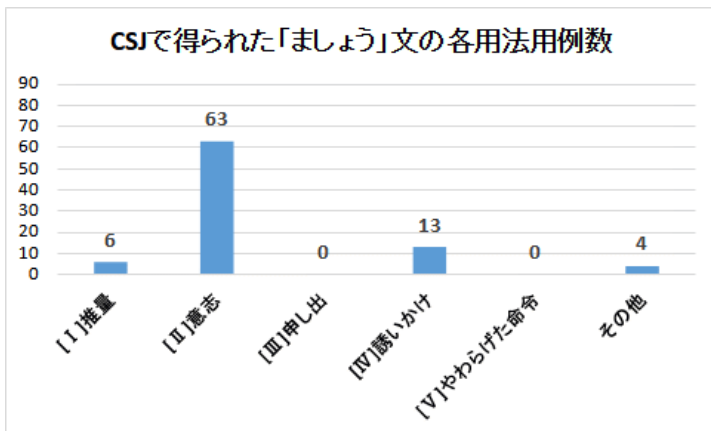


図4 CSJで得られた「ましょう」文の各用法用例数

CSJ を使用した調査の結果、得られた用例86例のうち最も多く見られた用例は意志の用法であった。本稿で注目するやわらげた命令の用例は見られなかった。

#### 5.4. 考察

日本語母語話者の言語活動を対象に「5.2.」では書き言葉、「5.3.」では話し言葉における「ましょう」の出現頻度について、調査を行った。図3、4から「ましょう」の用法全体について見ると、コーパスごとに得られた全用例数は BCCWJ で157例、CSJ で86例と異なるものの、やわらげた命令以外の用法の推し量り、意志、申し出、誘いかけについては書き言葉の BCCWJ と話し言葉の CSJ の間で、用例数の割合には似た傾向がみられる。

本稿で注目するやわらげた命令の「ましょう」に限定して述べると、図3が示すように BCCWJ においては全用例157例のうちやわらげた命令の用例が81例現れ、全体の半数以上現れることがわかった。一方、図4に示すように CSJ においては用例が見られず、書き言葉と話し言葉の調査結果に差が見られる。このように、日本語母語話者の書き言葉と話し言葉を対象にしたコーパス調査から、書き言葉のデータであるか、話し言葉のデータであるかによってやわらげた命令のみに大きな違いが見られることがわかる。しかしこの違いは、書き言葉であるか話し言葉であるかという点が要因となっているのではないと考える。この考えは、BCCWJ から得られたやわ

らげた命令のレジスター別用例数によっている。以下表 3 にレジスター別用例数を示す。

	レジスター	やわらげた命令「ましょう」の用例数	調整頻度(10万語あたり)
1	「出版・新聞」	2	0.65
2	「出版・雑誌」	19	9.39
3	「出版・書籍」	8	3.92
4	「特定目的・白書」	0	0.00
5	「特定目的・知恵袋」	48	51.10
6	「特定目的・ブログ」	4	4.31

表 3 BCCWJ で得られたやわらげた命令のレジスター別用例比

表 3 見ると、BCCWJ で得られたやわらげた命令の用例全 81 例のうち、レジスターの「特定目的・知恵袋」において用例が 48 例現れている。これは全体数の半分以上を占めているということであり、他のレジスターと比較しても用例数が著しく多いことがわかる。この「特定目的・知恵袋」が BCCWJ のレジスターに含まれることが要因となり、BCCWJ の調査でやわらげた命令の用例が多く見られたのであると考える。

書き言葉と話し言葉の違いが要因であるとすれば、表 3 の「やわらげた命令「ましょう」の用例数」は各レジスターの総語数に比例するであろう。そして、出現頻度はいずれのレジスターにおいても同程度となるはずである。しかし、表 3 の 10 万語あたりの調整頻度を見ると、「特定目的・知恵袋」は 51.10 語と、他のレジスターに比べて著しく高い。このようなことから、書き言葉であるか話し言葉であるかが要因ではないと言えるであろう。

次に、なぜ 6 つあるレジスターの中でも「特定目的・知恵袋」にやわらげた命令の用例が多く見られたのかという点について考察する。

「特定目的・知恵袋」は、Yahoo!知恵袋という「参加者同士で教えあうことを目的とした Q&A 形式のナレッジコミュニティサービス」(丸山他,2011, p.40)である。「教えあう」という言語活動の中には、回答者として回答・助言を与える者と、質問者として回答・助言を受ける者が存在する。回答・助言は、受ける者にとって有益な情報であり、利益と見なすことができる。つまり、Yahoo!知

恵袋では、回答・助言を与える者、すなわち利益を与えることができる優位な立場にある者と、回答・助言を受ける者、すなわち利益を受ける下位の立場にある者が存在する。情報の授受による優位・下位の関係が生じることによって、以下のような例が多く見られるようになる。

(10) (質問者) ハサミなど機内に持ち込めないものはやはり現地調達ですよな？

(回答者) スーツケースの中に入れてしまましょう。  
機内に持ち込むことは出来ないの。

(11) (質問者) 仕事で、大変怒られました。しかし、こちらに否はなく、相手の単なる思いこみでした。

(いわゆる逆ギレ) 偉い方なのですが、どのように対処したら良いのでしょうか？

(回答者) マジ、腹が立ちますね。でも真実は必ず分かるから、ここは耐えましょう。

((10), (11)は BCCWJ の Yahoo!知恵袋から得られた用例である。)

上に示した(10)、(11)のように、優位な立場にある回答者が下位の者にある行動をするように促す状況が生じやすくなる。このような特徴から Yahoo!知恵袋でやわらげた命令の「ましょう」が多く現れたのではないかと考える。今回コーパス調査で用いた BCCWJ、CSJ に含まれるデータの中でも Yahoo!知恵袋のみに見られる特徴である。

以上に述べた特徴が、Yahoo!知恵袋のデータを含む BCCWJ でやわらげた命令の「ましょう」が多く現れたで要因あると考える。

また、Yahoo!知恵袋に見られる「ある行動をするように促す」という特徴は、仁田 (1991: 229) で述べられている「〈働きかけ〉」の定義とも類似している。

仁田の言う〈働きかけ〉とは、モダリティの中でも命令や依頼などとして機能するものを指し、やわらげた命令については、〈働きかけ〉には含まれないとしながらも「一定の条件の元で、(中略)〈誘いかけ〉を表す文(中略)などが、〈働きかけ〉の文に近い機能を果すようになる」(p. 261) と述べている。

仁田の言う「一定の条件」を満たす状態とは、「主格（動作の主体）は、原則的に二人称名詞のみであり、テンス形式の分化は存せず、言表の成立時は発話以後である」、といった〈働きかけ〉の文の有している制約を果し、それらの文がこの制約を充たすこと」（p. 261）であると述べられている。

一定の条件を満たした文末の「ましょう」が果たす〈働きかけ〉について、以下のように定義されている。

「〈働きかけ〉とは、話し手が相手たる聞き手に自らの要求に沿った動きの実現を訴えかけ・働きかけるといった〈発話・伝達モダリティ〉である。」

（仁田(1991), p. 229 から引用）

この「話し手が相手たる聞き手に自らの要求に沿った動きの実現を訴えかけ・働きかける」という定義は「ある行動を促す」という Yahoo!知恵袋で生じる状況と重なるものである。

#### 5.5. Yahoo!知恵袋と日本語教科書の問題指示文との共通点

5.4. では BCCWJ のレジスターの中でも、「特定目的・知恵袋」の Yahoo!知恵袋のデータの特徴が要因となり、やわらげた命令の「ましょう」の用例が多く見られるのでであると述べた。「利益の授受における優位な立場から下位の立場への発話」という特徴は、「4.2. 学習項目以外における「ましょう」の調査」に述べた問題指示文にも共通するものであると考える。問題指示文も、問題についての知識を持つ優位な立場にある問題指示文の筆者と、問題についての知識がより少ない下位の立場にある学習者へ向けられた言葉である。これは Yahoo!知恵袋に見られた特徴と共通する。

### 6. 本稿の結論

本稿では主に以下に述べる点を中心に、やわらげた命令の「ましょう」について調査及び考察を行った。

「4.1. 学習項目における「ましょう」の調査」において、本稿の調査で対象とした教科書においてやわらげた命令の「ましょう」は学習項目として提示されていないことがわかった。



「4.2. 学習項目以外における「ましよう」の調査」において、教科書の問題指示文でやわらげた命令の「ましよう」が多く見られることがわかった。

以上のことから、日本語教科書において学習項目として学習する機会が設けられていないものの、学習者が教科書で頻繁に目にするという状況が明らかになった。

また、「5.4.日本語母語話者の言語活動における「ましよう」の出現

頻度に関する考察」において、BCCWJのレジスターの一つである「特定目的・知恵袋」に含まれるYahoo!知恵袋の特徴がBCCWJで得た用例にやわらげた命令が多く見られた要因であると述べた。これをふまえ、本稿の結論を次のように述べる。

日本語教科書の問題指示文に現れるやわらげた命令の「ましよう」の出現頻度の高さから、何らかの形でやわらげた命令を学習者に提示し、説明・導入をすることが理想的であると考えられる。

また、母語話者の「ましよう」の使用頻度の調査から、教科書のみには現れるものではなく、日本語母語話者の言語活動の中でも、Yahoo!知恵袋のような特定の場面で用例が見られることがわかった。このことから、日本語学習者がやわらげた命令の「ましよう」を学習する必要性が高まったと思われる。

## 参考文献

グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版。

仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。

丸山岳彦,山崎誠,柏野和佳子,佐野大樹,秋元祐哉,稲益佐知子,田中弥生,大矢内夢子（2011）『特定領域研究「日本語コーパス」平成22年研究成果報告書『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に含まれるサンプルおよび書誌情報の設計と実装』文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」データ班。

## 参考資料

嶋田和子監修,田中美帆・立石恵美子・坂井訓久・渡辺唯広・大橋由希編（2011）『できる日本語初級』アルク。

嶋田和子監修,日本語編集チーム編(2012)『できる日本語初級』アルク.

スリーエーネットワーク 編著(1998)『みんなの日本語初級 I 第2版本冊』スリーエーネットワーク.

スリーエーネットワーク 編著(1998)『みんなの日本語初級 II 第2版本冊』スリーエーネットワーク.

日本語教育教材開発委員会 編著(2005)『学ぼう!にほんご初級1』専門教育出版.

日本語教育教材開発委員会 編著(2005)『学ぼう!にほんご初級2』専門教育出版.

日本語教育教材開発委員会 編著(2006)『学ぼう!にほんご初中級』専門教育出版.

山崎佳子・石井玲子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子(2008)『日本語初級1大地』スリーエーネットワーク.

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)」.

国立国語研究所「日本語話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese)」.

国立国語研究所 コーパス検索アプリケーション「中納言」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>).

## **AUTHOR'S PROFILE**

### **Haruka Yamanouchi**

In March 2017, received a B.A. degree in Japanese Language from Senshu University. She is currently studying Japanese grammar as part of the Japanese and Literature Master's Program.